

KODAK
LICENSED PRODUCT

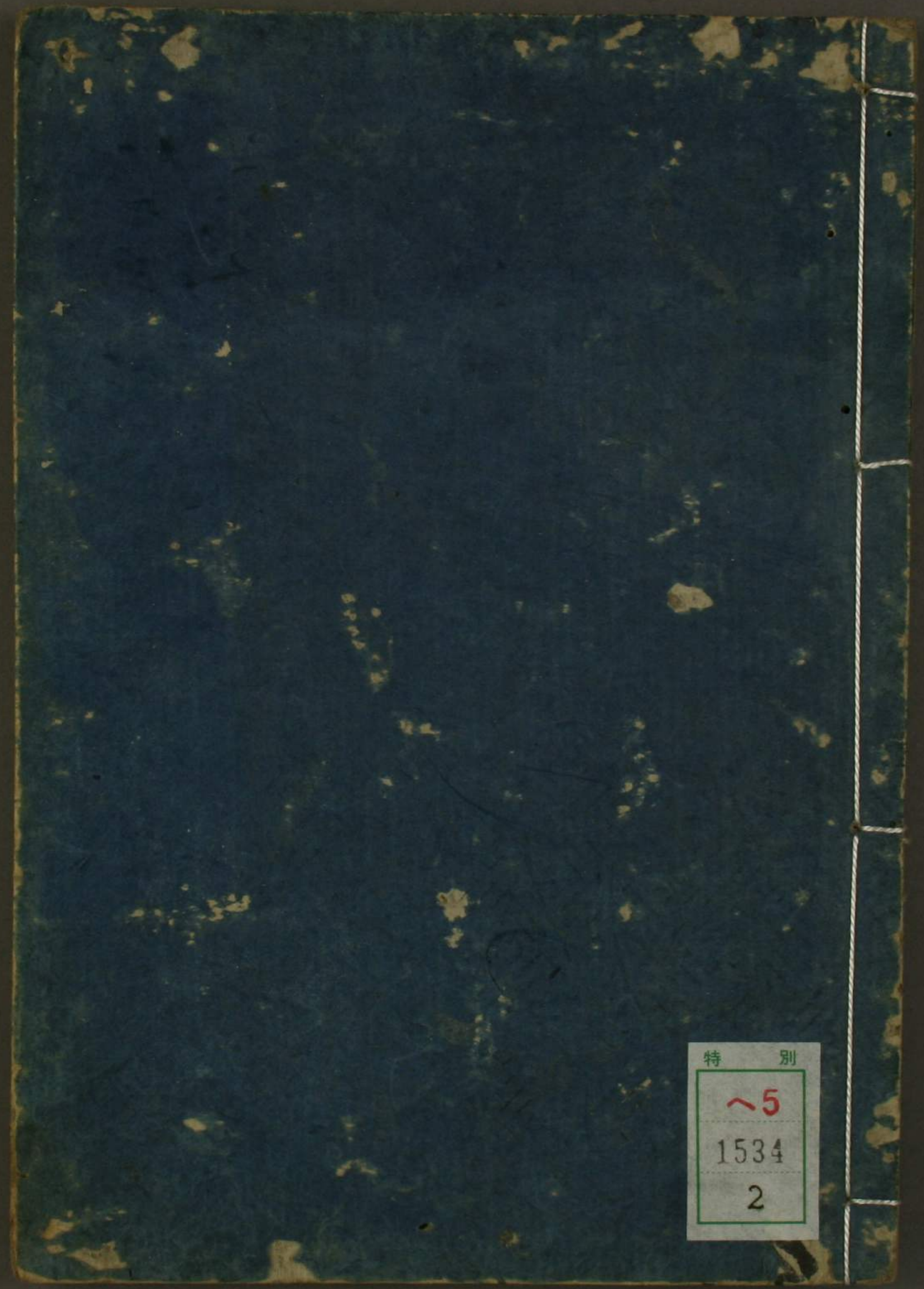
© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



特 別
~5
1534
2



入
利
1.534
卷 2

崑山集卷之二目錄



初年
柳
杏花
烟杪
着和布
蕨

佛別
松蒼綠
棧
角絕聲
去筆
苑

鹿山集卷之第二 春部

初年

多きもや今日初年此の初

初年の中より道へりて

初年に鞍つなくとるい集

くんと由志く人の折

初年よんや折りけの力

初年おさわひの初集

平栢

良次

政信

鹿山集卷之第二 春部
初年
多きもや今日初年此の初
初年の中より道へりて
初年に鞍つなくとるい集
くんと由志く人の折
初年よんや折りけの力
初年おさわひの初集

きりくといさるひ行く

初年へきふたさあひの物集部

長頼丸

佛のわく

二月十五日為らふ

ちかく

まゆみちむらじりくの朝端水

目たきまけり佛のわく

天余の母を縁らんのをこの世

わがまらもさる鳥いぬい縁らん

何んところせう二月の暮りわ

清盛へいさそ佛のわく

この世はむま耳たつら縁らん

あ百人わらひんを此縁らん

昔波の茶志やむよあし

ふ部よあ史百らひんの縁らん

去人二月十五日みよふ

南部信持 元五

三原 加友

奥西 元三

本系 友三

曰

市之

別ける遊音也

別ける世の志やうさぬれり

正朝

かろる家世の七糸志由さるの別

吉治

新遊の別はさるるんたる

政信

孫らん像おなけの五十二月外

同

新王もさるる新遊の別は

同

別は其の御おゆる毒らんとも

良徳

今日い誰を結せよともじり

長頭花

頭お面さるいおじや孫らん像

同

柳

花のさきふふ柳やむい

切の井の柳のぬれ喜薩うか

枝のさるる他わいのせり柳か

喜柳のさるるなきさとの本ち

美風の柳のかはれ頭風う

依保作やのら柳の長う色

新うらと水も柳のむんうこ
西風も柳の枝もさるひうち
下葉も柳うらむれさるさり
若とらふ柳の葉のふもさる
柳髪吹くうらむらわ
春柳の本くらむらわは
雲花乃もも柳も風も草
きたらとらむらむらも柳

飛ぶ柳の葉もふらわ
柳も葉くらむらむら柳も
波のわも柳も葉もさる
枝の柳も流石の中も葉
かえさくらむらむら柳
雲の柳も流石の中も葉
ちら梅も柳も葉のじも
川も柳も葉も柳

氣力なりと雖もみきりふ柳
親意はちしやみきりふ柳
さしめも茶のこほなれ柳
川口ぬきうららむ実茶柳
かこくくもじのほも茶柳
葛城の天物たごう柳
火梯やけと氷さの柳
いららるゝ是乾坤乃と出柳

まへぬくくふらむさく入柳
夜もめてみや浦端の箱柳
枝ぬあらちむらるゝ箱柳
うさしとく當出とれ箱柳
枝さしはし柳せん志もれ柳
目のよとぬれりわこふ柳
おとあめ持てわてりる柳
花ぬ増こちらんこらるゝ柳

物らかき川吹かきよき系柳
まきかき身よかかきかき柳
下流も志しきかき系柳
まきかきかき海人のかきまき
佐保姫のかきかきかき系柳
常のまきかきかき本北系柳
かきかきかきかきかき柳
川まきかきかきかきかき柳

鶯の親子かきかき柳
まきかきかきかきかき柳
風のかきかきかきかき柳
池もかきかきかきかき柳
波もかきかきかきかき柳
かきかきかきかきかき柳
かきかきかきかきかき柳
かきかきかきかきかき柳
かきかきかきかきかき柳

本寸念といふ山まきそなる柳哉
 風おもしろしなまきの骨と川柳
 みるくの目も、さかから柳か
 けいこいみよ上さう此系柳
 けの髪と刀いゆらへせの柳か
 風うそて誰のわく廻き柳哉
 葛城やそのうも枝くの娘柳三割
 娘柳枝とも枝かけくも髪江別果は行
 改成

枝くの多き柳い子子か江戸 未得
 氣をいし毛頭風いもぬ柳か古坂 正次
 蛇柳の枝くも角煮うるこし元子
 烏帽子のいしひかぬ柳哉うき寺 夕翁
 さいかりしめ付髪さする柳か 曰
 尚圍梨鵲巢頂上いん
 名は巢ハ美蓬のゆの柳うこ 曰
 六条の柳乃髪いふゆら橋山 保友

松尾の柳也出家

月

かきつばたの柳也

定利

多き葉の柳也

孝祝

花咲てさかす柳

忠好

墨深の柳也

長勝

海老梅の柳也

方成

鶯や古今傳授の柳

安齋

餅雪の柳也

利重

小つらさの柳也

金成

老木の柳也

良保

餅雪の柳也

吉時

二まきの柳也

日

ゆいさうの柳也

日

梅田の柳也

正和

花桶の柳也

定次

朱柳の柳也

忠次

...

...

清水やうんこのひま白の茶柳

東山

林儀

俵とくはくも悦つこめ柳

友吉

未得

青柳の連枝乃末いつく木柳

友吉

貞好

柳の大事大ひらめ柳

梅口

円

春さくらんぼ道野多此柳陰

梅口

円

心家遠あてやふさ柳

江守

忠好

延じ枝やあつれ柳

信濃村

正勝

揚子娘のそく此に柳

麻見

きりてらんせんる猫の柳

正信

白浪のうらやま川柳

友吉

水鞠乃のつこの柳

大坂

糸川ららる半此川柳

友吉

夕わやうやうあつまの柳

江守

浪風のそく此川柳

大坂

流るそく此川柳

友吉

流るそく此川柳

友吉

清多歌いわふさりのあ柳ふ

江ノ巻中六

英香

みゆ来りや柳のさびし柳の

流子川

一井

花のやみさくれさる柳髪

大坂浮舟村

重明

風流あひ吹玉柳

大坂若村原兵衛

清友

風吹の枝やゆりくく玉柳

大坂若村原兵衛

利政

糸たきく枝もまらりて玉柳

助喜

うそをよや海らさきくちん此糸

柳 大坂若村原兵衛

久氣

うらや上藤物といと柳

周次

柳の本みりらや野この糸柳

大坂若村原兵衛

久勝

風や相場わらりさくち糸柳

定重

涙とくまく枝もくちん此

柳 野江甚右衛門

長治

頭とゆりい風やいなら柳髪

尾川清水

玄茂

女虫の美薩や琴此糸柳

大坂

不存

氣力をよきてをさる脈の糸柳

中野

如貞

分て死枝やうらふの糸柳

留公若

貞宣

料理せよそはるか柳を人

貞則

鬼母の髪をうきしるもやま松 十 之の松 清玄

勝どろ柳と楓やなふり物 大森 幸忠

大坂新清水万白巻

浦志の母末繁昌の柳か 長院

一筋色く糸そぐ柳那 円

姥柳の懐家のつとよ其の

の可なり

あつらひらんも今や姥柳 円

さか娘や楊をよめて柳とじ 円

五世の祖母の柳のち此姥松 円

緑なる髪といそりか姥柳 円

其系わらん万竹そ柳系 円

観音の環路う流ゆの玉柳 円

寄の玉て元やうと打た箱柳 柳 円

さいきおわらや緑の箱柳 円

萩柳流のさうりや系柳 円

打掛り入處のさの箱柳
よのつ枝とよの母指や数枝
やまの箱は是もやまの箱
人々のまてらん柳
まのつ枝とよの母指のさの箱
母指柳地まのつ枝とよの母指
まのつ枝とよの母指のさの箱
まのつ枝とよの母指のさの箱
まのつ枝とよの母指のさの箱
まのつ枝とよの母指のさの箱
まのつ枝とよの母指のさの箱

納豆の箱くまのつ枝とよの母指
まのつ枝とよの母指のさの箱
親指とよの母指のさの箱
母指とよの母指のさの箱
母指とよの母指のさの箱

飛石の箱くまのつ枝とよの母指
まのつ枝とよの母指のさの箱
まのつ枝とよの母指のさの箱
まのつ枝とよの母指のさの箱

二

三

貞好
盛賢

作保姫の志しくありやまはる

長頭花

松乃緑付 表花

老松もなりや十八乃みしつ

姫松のきしつさ母のりや緑

たつ尾のり松りちるもり凡

り濟の松やあの子れもり凡

るくわらや虫糸と松のり緑

松のり子と心いまも緑付

姫松の緑や常盤のりたり

松のりもみつと子れもりて花

松花

高む枝母とるり咲や松の花

本目

露の玉のりすむ本花目のり子

本乃目さるはりてやあの家

る妻の本中もあむじとん

友吉

貞好

増任

玄徳

上坂森中保中丸

宗富

新保田巻

正徳

未得

塙橋井長

貞房

重勝

まぬやうし木枝のうけら

まをまうんきそまぬ木の

花の息と目ませとまらへ柳

孫起るや母目とまらへ柳

まらへ目色とまらへ杉木

まらへ木枝のまらへやまらへ

木のわけてまらへ若枝庭

花乃枝と枝と木目のほら

物さき木枝と花のりふ

人の目も木枝のまらへ

花さき木枝のまらへ

まのうらま木枝の味

木枝目も人のまらへ

木のまらへ出まらへ

花乃枝のまらへ

花のまらへ

未得

満成

政信

保友

孝家

正儀

長光

同

棧

白玉の何そとく人いあり棧
 花をかくとそいと棧のありけ
 花をけいといのるや珠敷の玉棧
 小棧のちるれとせいちりけ
 きそみよわわとさるりれいせ棧
 ひおとみ花はよらふや保珠棧
 白いけとかくふい矢落つとさき

花をさるやむけい白保珠棧
 入らるや釣舟よと人ありとさき
 白回てそそいさるらつせ棧
 八子代咲やなて下和の玉棧
 花の敷や子顆百顆の玉棧
 ちよとさい朝日とれや玉つとさき
 花乃ちる手もやこちとれ玉はさき
 咲てはなれいこと成やちり棧

花入の口を母川のわらわるとき
まくらしき流石も半此玉棧
本母竹と流石のたがう教棧
流石分此棧の花を母りん一
ぬのうま母り子あまやいせ棧

返書

ぬやさうし神女も流石ら棧
茶母流石のちやまのしら棧餅

花籠もや志やんとさむも棧
たのわりし流石も玉棧那
花の流石油母氷の玉流石
紗女もや佛母さうく玉棧
まくらあ花の半此玉棧
寄れうも流石や夜の玉のさき
まくらもせよ流石れも棧
かま流石もせよ流石の玉棧

十六

保友
如貞
利政
林麻
定之
良和
正勝

花のんまけるみまもたきこふ

一系

志ひつときも花のひさおれ樹

友我

結縁の種りおまんのちりり樹

定房

花のひさやまのちりり樹

重久

ふけ子たいろはよほとちりり樹

合成

流まよけの樹と

まーまろちるやみ濁のちりり樹

正家

掃たぬたや山鏡ちりり樹

合成

いろはふひちりめるとわり樹

伊良

花毎ゆやまきうけや志樹

實家

るり嘆の花や合浦の珠樹

時之

見わらぬや此が樹乃わり樹

志家

庭あらの橋ときまひかり

ていおのまじり

篇をかり樹ととりし表は庭

時之

樹の花と折句

月影の気もさうく秋の端居部

同
珍本程あり

高きやせうそ泣らん志乃様

信安
大坂

咲方の赤い海老う倅現様

盛庸
定法伝大森あり

飛入のわさこいんゆを様う那

重成

咲ぬるいけよまのやそ大はれさま

清心
大坂

木立ちやみん常の金つとさ

助喜
大坂

東の山門泣き茶の倉よ

うと山座あへりけり

ゆるせなる花も飛入の玉椿

長松

花入のほりちやくやなま様

同

我とわくとちみくさゆや赤

同

かかんうくちくく桜のうら

まひめ様と赤み生きり

吐くも八重成けり

比毛今八せんさいの流

同

烟杉

志んる此草のくさつく去草
 去草さるるま今いもまかか
 流し海に入るれりいと去草
 土草有草の志んる下草
 去草摘草也いと此草は
 ともせしむた藪の志んるは
 保保娘の志んる草也去草
 さりりへ乃子取草のくさく

志んる本の名い二も此根草
 勅筆の天内山乃はくく
 去草の志んるくさの去草
 誰の若母種と去草土草
 草めしてくさ母もくじや去草
 けり草のくさめがく此去草
 志の草深じとすりへ露子
 保保娘の志んるくさ

保友
外太坂橋

同
尾所坂会

政辰
行相

良保
紀所雅云云

一南
熱地云白雲

三三
娘所行

らんひつりつ地くくみ出り去る

素心水若小言

舞むつとある人あつこ此土事

古板

久新

貞則

遊音

とくしんやうき音とほくく

不盈

まふまの親いあふ去る

徳念行

秋意

平頼やみくはひしめし去の事

長記

多ゆひつ塚らやまら去る

日

将也山樂し

去る中てかえきや繪去る

日

九列のるや日とまりほくく

日

蕨

と日ひり一土のとむけの蕨

口

籠おしのままいせんり

わうくしてむらむ此尾の鑰蕨

切向の蕨もるまうてち

ゆちくもるゆめおれうき蕨

乃とくうくわつひちちうささ蕨が
 切しきしひと流らひころ蕨
 ちをゆつと蕨やちぬかひ道
 蕨はわつととさうつ右れは
 ちふ母やんちとちまき蕨縄
 傷ふも切らわらぬのひき蕨
 ちまきちやて漢ちつとち蕨が
 我とゆとちつと蕨はひらむか

ちらちひちまきち極の下ゆむ
 ち流らひちひちちた乃下蕨
 布ちちて蕨も懸ちちちち
 ちてち流つちちち同のちち蕨
 ちてちちちちち焼ちち蕨のち
 ち身とちちちちちちちち
 蕨ちちちちちちちちち
 ちちちちちちちちち蕨外

蕨

貞好

蕨

保左

此列は...

由吉

土坂村...

重貞

蕨

久孫

たみ長つこむむの物出の物

右後行の事

吉任

あつたつこむむの物出の物

坂会

政辰

あつたつこむむの物出の物

河内右井任

吉首

あつたつこむむの物出の物

右後任

一明

あつたつこむむの物出の物

素平河津美

俊秀

あつたつこむむの物出の物

素平水吉有為

長昌

あつたつこむむの物出の物

中解法三

通保

あつたつこむむの物出の物

仁田

政信

あつたつこむむの物出の物

新野伊兵衛

吉之

あつたつこむむの物出の物

堺奥田佐兵衛

吉幸

あつたつこむむの物出の物

新川

玄樞

あつたつこむむの物出の物

三津川吉有為

吉治

あつたつこむむの物出の物

一ツツ

吉元

あつたつこむむの物出の物

一ツツ

吉元

あつたつこむむの物出の物

一ツツ

吉元

百足より蕨より多し〜
上人の蕨より多し〜
曰

勝月

い〜とまろ〜
友我

勝月夜新〜
良勝

勝月内約の〜
若庸

子金との〜
良保

横〜其〜幕〜
信安

文字此あり白〜
云哉

勝月の桂男や〜
方成

あ〜物や肉約の〜
安三

月〜と〜け〜
未保

救珠す〜
舎六

酒〜か〜ん〜
若盛

花

な〜ら〜あ〜
の花

為めさうな花や親母 不孝の

遊書

幼人の浄土の美は花見うか

折雲歌奇りて

互花の只よひ志人の浄土計

みそみぬ人の一むあろろ那

花とあたまき落もや枝の親

背小陣や地まろ花の八重露

歳夜もとうたきん物や花の跡

花のおやあまう子置れ美の風

連弁仰う陽とく行人むれり

あつ奇めて

友花の列子の月女のりり此庭

妻母あまそくもそや花は笑

花の下やうふ舞うて若菜子や花

思道のあつあまの折な志賢のむ

科ハ何花とけりは後西家

高僧一具の時

花の名を叫ぶるや身不初坂
あふ花さく志のきい流が
寐をた花の波と志と縁外
花のあふ赤梅檀々秋迎はき
川乃流の波ふうや花いへく
風の勢う花舟鐘魁の札も亦

花軍佛もさうらわ三具足
花の下めじさしともあやせ
むくの流をさうらわす流外

空津の燈也

九重花花舟まさらわ中うんこ
花舟さくらをせらるわ象柳
花舟さくらをせらるわ象柳
花舟さくらをせらるわ象柳
花舟さくらをせらるわ象柳

高野まで

花を火とそよと葉敷のうら

若燈と

うたかたそよと葉敷のうらそよ燈
花のうらたそよと葉敷のうら
出あわくそよと葉敷のうら
火とそよと葉敷のうら
ち心燈の光そよと葉敷のうら

紀列と

花母のうらたそよと葉敷のうら

初瀬と

花母のうらたそよと葉敷のうら
うらたそよと葉敷のうら
花のうらたそよと葉敷のうら
花母のうらたそよと葉敷のうら
花母のうらたそよと葉敷のうら

きけくとおふ上戸の花は余
うらまやん橋くさる花はうら

あつやうつやその國の花はうら

三姑寺の花と

とめく枝さんうら花はうら

花のたと

花を綿みろううらの花を

我もくまけと鳴や花軍

花さうりそれいっさうの若野と

むとうんて月あくおむ目

みろり色海さうる葉のたは外

花の形やひさうかはと此為假粧

作りあう一あまやえお花島

むくいこみおかけ若れうかひ外

あなけう花や波のうらとる

若れ好風や花と味方うら

鞍馬のむらさき

まろくそ炭母咲もや天物花

深正しそ祿宣のあらそ

さくらちるよ深正殿の花は花

蘭麝待白ひや花母表目山

むやちむび大東山乃雲花帯

常も色かさきて出よ花の香

三月の雲細とるぬむらさき

花母風咲ぬい草野志別計

祿寺のむらさき花母表目山

約も色さく此鞠とけく酒山

さるまのむらさき花母表目山

ふやの花々くちるとせ同麝宣

まよふ乃表やさちるく花のま

測母表花の絆地乃あさき

いけんたのむらさき花母表目山

道場のむらゝ家めりるるり
帯とつけ花と遊一多々
みみじくふといふと地をむ
美の夜は月花さるや法果報
さけい人跡と向ふりむは
若めあ花やひりるは重友
花みよと旅人とそとに
大塚の花めらむせえん

ちるまらけりるるるる
みみじくふといふと地をむ
美の夜は月花さるや法果報
さけい人跡と向ふりむは
若めあ花やひりるは重友
花みよと旅人とそとに
大塚の花めらむせえん

千句末三花

季吟

かさねあはるの木で花はたけ

月

うららさんあかみろをむの

月

新ひ吟く虎うそゆな花は

月

古今侍受仕ゆり時長頼花

とあ吟よ

花母汲者よけりあふふこり

吉吉

道長

青野山咲ちる花や盛衰記

月

探幽法眼吉野花のつゝの阿

なうまん花まの花つゝや花

月

双六うおそく花のさけり

良和

見えゆくわをふれさの花

月

折句え皆冠たまきのあ

志はしよきまのいま花は

大坂右中せあ

盛喬

花母の氷のお花やうー野川

伊勢平共東

月

坂の上花穿ちるやこれの花

正賢

花の影を繪かきえ赤く花冠

月

花の浪似たり下り方河を

教皇大元正徳

けられやあは家花了ゆを

教皇大元正徳

見ゆ花をさきすりわ

同

久ぬ花かく可也なくは

同 定利

詩と流も今山谷の花より

同

高砂うそ

たうま基母のえも朽んむ

同 正徳

むのちこらり母もあまら

同 正徳

金鼓奇ゆく

あちや花ちり本の本種い

同 正徳

母のよもさといてはめり

同

あ花よすむころいあかの

同

きおのゆいしくそをと花

同

花くぬうのふり新や丸は

同 政信

むの風といの連うんた

同

花咲の香うつり木の世山式 増信齋室房 安之

ひまわりをむしるらんり花の白行 利政

園の夜に波う花乃さくらり 赤岩 夜更

花とみり目や正身此生佛 尾別城 正辰

たぐ花のちりーみさこも花の辰 中倉 英昌

みぬ山のうら花やちり何と 未得

るゆ咲て親母心り子も花は雪 月

少く船のかりさうちりむ波 月

ちりぬいせむらそつらまら花 車 月

花の人の 花 左近衛兵衛 之貞

ゆさきとこるじせなまも花枝 上木下高平 正辰

宵平法くせんさ楽の花水 森田兵衛 繁秋

花めちむ風やねん花うこ 一滴

ゆくへいさみかりけう花の波 月

花をかせがそけくやう花盛 則重

あんまらひる花のこ 則重

花の漣やうきまてとくふ親の杖

三の當本は此
良勝

親あつとととととととと

面あつて咲わつたや親あつて

江戸後
康耳

花のあり目の佛もわわとて

同

む乃ちちちちちちちちちちち

同

山を海や成とてととととととと

江戸
正乃

大海ちちちちちち山う花の漣

加友

大海ちちちちちちちちちち

同

子ととととととととととと

江戸

ととと

花あつた親の雨あつて、泪は

同

うかりあつたととととととと

政忠

花あつたわらわ老木の花のあつ

定尉

花あつたわらわととととととと

貞好

花あつたの志願ととととととと

貞和

花あつたて花の漣もあつた

正平

目母のふむや稗のちしれ家

宗稗

家成と南村の花や咲屋姫

一成

依保姫の九花乃様久八重言

定重

みろや佛極らく中の花盛

曰

あみうこき風のゆゆや軍

曰

わけるさ風を花もや二重言

宗信

天物ありて咲たれもや三重言

三佳

花の細ままそくやかつ花

元辰

さしけりてちるやあけの花

元辰

花身み下るるもやう

宗信

のくさくもあやい似せわや花の情

宗信

さみりく花をひもけは花

宗信

情まのりけり花のまひ新

一治

むいさく心もいちせまは花

一井

體人れうしてさよあをさあ

宗信

あめこもあやせさるん花

宗信

五十一

宗信

宗信

宗信

宗信

宗信

宗信

宗信

宗信

あまをむねのてりまの花ひる

福井六長兵衛
清之

花の浪ちし波鯨屋の子れん

同

清乃花も咲つらんささけまひ

同

花も色半はなしく花見車

行相清乃
良保

むらさきのあまをむねのお

尾崎中三郎
好む

寺も清て

今もいんも花やうとせ親師

高田
友直

清の花も志す此勢やちらの

のち三木
元晴

うら花も色目すましくいさ花紅

古坂水島房房
宗直

あまのや行世親師の花の宿

尾崎清乃
友直

子れ此年都婆海しの花宿

同

みそあつちひさあつち花も子

尾崎清乃
一元

咲つちひさあつちさうまわ花の

尾崎清乃
一明

あまのくくつらんささけ花見車

尾崎清乃
好む

二もあつち花も色半はなしく

尾崎清乃
定時

あまのくくつらんささけ花見車

尾崎清乃
友直

朝露と為座内の心より

甚也

三妻のやく病りうきにたれを

好永

見物の心をたらしりて

正朝

終に成てればん物やれんを

賞之

赤白の源氏平家りとる軍

青島

あらむ風いよいれん氣るを

同

をの人の稗なりきりと月を

同

八景の中に九をたらして

之思

あらむ心とみを

花やじりと中の男山

後定

あらむ心とみを

不念

あらむ心とみを

政次

南に見じとふやたのうし方細

系居

あらむ心とみを

一頁

醍醐の色一見あく

中の三系

平の時花の波をなする

長次

廿八

嗚ちちち天通次才花のぬ

聖次郎

玄茂

三舟のたの雪もあつ師を式

律行

伝元

鹿さし此舞や花の奇とるふ山

海ら

彦成

風舟馬の舞よあやうら花地

素心

志重

去性の胸や釣志花とるを

那ハ

正貴

人自みぬや地の内まの花ん

敦

正世

花をたえて悟あやちり此世

中

貞直

深くちまわさるるこの花

野

一親

道ハ天舟ありて花もわ花地

徳

家

永日星花舟一寸法師

納

如

水舟花あや浮舟浪のあや

素

昌長

連袂くわおとききくら花枝

依

時之

花うらうらわ花野此境見

江

彦成

約なりそいそく鏡の花ん非

依

伝元

因今舟も九重のむわの重一重

法

重之

花を人さきせらとるる花

大

彦成

出入の息や心のこもる此の路

此の路の山

ちよとぬいともくもんつはのた

此の路の山

花あかすふやあんくろる者

此の路の山

むよかきと天のちよとえ太声

此の路の山

天王奇めて

咲ぬはよやろろく本此花もか

此の路の山

花のえかあこれ縮の表くか

此の路の山

むよとそくおとえれ風の神

此の路の山

あな花いこの毒蛇ふじあな

此の路の山

あつんいせん咲流壺あこれ流

此の路の山

花と火とそりせ本流のくお

此の路の山

花の病挿ふるあまはせん

此の路の山

花乃下あそりそ産あ作ひ

此の路の山

花の白ひ縷あもるあもる

此の路の山

花や折あられぬろろや

此の路の山

めとゆりよあそくそをさ

此の路の山

芳名曰あはれはひのふはむらら 同

花の香のふあしとく鈴麻山 同

あまやたしめとじむんふ 如貞大坂位大津勅共東

花のあまそあまふ袋は風を吹 同

化花やいとく高師の漢枝 同

約花かよひと花とふ雨はか 同尾州津守位

入道に大れ子とせよ花はふ 白岩大坂位

花をゆきとせて花や初志也 宗貞

志賀とて

かきんふよ一二三志賀花 不盈

さししといふあま花の志賀 寄安森位

花見酒杜康とむむ本陰 合成

梅念寺とり子守とて花

のあまとみく

花とつんで中じも道程せう 牙他南郡位紅雲正共東

冥名なちるちあはれふ花の枝 同

花のまはるさなむらりつら白の糸

江戸行友廿六歳
秀吉

花のわらわらむらりの本舟風は

純竹
忠治

咲てはな花のわらむらり今志

作友
栄甫

花のまはるさなむらり白の糸

同

合歌の奇めて

ちさちさや鐘つしき雲はたる本花

大坂住権山名右
保友

花のまはるさなむらり白の糸

春の太極年号
林儀

小棚お花生けり

生花や棚はらうらぬ恋み

幸向清兵衛
休世

花ときまら花のこはらと初歌

元歌り兵衛
梅盛

葉の富士は花や花の幕は

徳方
同

三花野の花もまはるる花

娘の四首
成

母のまはる花はけり花の地

左衛門
政次

富士の雲は花はあやのれ花

近

多岐の奇めて

ゆき花はあやうら花の本の奇

春行中川台
全治

本丸の如水の嘆花のこころ

櫻川富臣

みづくく花めんれ鬼りり

江戸杉橋本流

世のうきまじらへ御らまはる

同時

花と折菊と一念かつきか

政興

花はあつて天下一樹のやどり

正長

我花のよのさすた吸み

久次

白く兵へる東洋花のこころ

一末

去る花とていふ本丸花

吹白

あゝ花枝もつき本丸盛

日

花と菊と此花もやりの六

身

三花も花とちり流るてやま

尾列

みみ身ていゆたさめさじに花

政定

抱いよめ花の枝菊やそり花

多りてふよ花とくれわも志

さる春奇花の下え

政定

雨に親やそらるる花の子と云

其語

花のめをいふと潜て

け花の神代をさしめぬいふ

同

親と子や花を母系へのやり持

清心

懐あふるや雲に花の鞠は懸

多々

老て子母を執るるいづれの面

良雲

大坂新清水水万の米三花

花の

花のあをを浮本花毎の二つ

良徳

水牛の花の波を車牛

長花

那智に流や花の白波念珠

同

花のつらん花を風車

同

花の多きふる花のよき

同

花さけいたる花を白ふらや

同

まん十八花をわら花のつ

同

花を也供志く花は都入

同

風のまへ乃花の色即是定
 子おのつと親ありしおれむの面
 蜜丸の蜂乃そむうふたの家
 祿うせして表ひしてよ載れ面
 花ちとほ月を本此よのあゆみ
 面ハ親とれおとひそ表乃花
 雨露の身よしく花も氣十四
 むおうき風とあむら醫者
 同 同 同 同 同 同 同

さらりおんかちある色を
 あ花いろそ紋るれや若じり
 まけやく爽ハ成次才本を
 一女も花ハ若野のらくと
 さらは花あじのううく
 花さ道ハ心をそのわら目乃佛
 作礼而去と笑ゆわはのむの
 友まゝの南のさし
 同 同 同 同 同 同 同

花とあてしな代とこころの歌

同

古学う依あらとせうら

きと花のしきとせうら

同

何れとう花のあせい松の

同

飾屋徳安貝のめ

呼けのうたはなまのむきと花

同

まんゆくと花のあせい松の

同

六角の花籠もたもけの坊

同

花や志あつみの樽のたけ

同

花より色樽のよまらち表

同

花袋いちとよあひるさび

同

花あつとあまのむき

同

奥てあつとあまのむき

同

ひらり雲とて

花見せんとあまのむき

同

余のあまのむき

同

咲花の雲の如くひらひらと波よ

同

花あじむるゆきをくまの海を鞠の

同

うさぎのふし目出さるる花

同

南無花王花のよきるる金巻山

同

舟よゆくふらふ花の笑ひひ

同

東門の犬傳正成乃也秋は金

同

一矢舟にたふ衣や花のやま

同

花も咲きて我とあんなはあ

同

花の波とつれあはらるる日

同

花の波とつれあはらるる日

同

1775
 1776
 1777
 1778
 1779
 1780
 1781
 1782
 1783
 1784
 1785
 1786
 1787
 1788
 1789
 1790
 1791
 1792
 1793
 1794
 1795
 1796
 1797
 1798
 1799
 1800

1775
 1776
 1777
 1778
 1779
 1780
 1781
 1782
 1783
 1784
 1785
 1786
 1787
 1788
 1789
 1790
 1791
 1792
 1793
 1794
 1795
 1796
 1797
 1798
 1799
 1800

